

あなたのレポート、大丈夫？

～文章を書くことが得意な方へ～

1. 「レポートなんて余裕、余裕！」は危険？！

「レポートなんて、日本語が書ければちゃんと書けるよ」という声をよく聞きます。確かに数学や物理などと違って、高校でレポートの「公式」を習うこともありません。「文の終わりには『。』を打つ、段落を変える時は文頭を 1 文字下げる、etc. …それくらい知っていれば大丈夫だよ！」と思いたくなる気持ちも分かります。でも、本当に大丈夫でしょうか？

「なんだ、やっぱり自分のやり方で良かったみたい」と安心するためにも、レポートを書く前にちょっと確認してみましょう。「こんなの知らなかった！」という事があれば、吸収して自分のものにしちゃいましょう。

2. 「私の当たり前」は「あなたの非常識」

そもそも、何のために文章を書くのでしょうか。もちろん、自分の満足のために文章を書く場合もありますが、それなら日記帳に書いていけば良いですね。何のために文章を書き、公開したり、誰かに渡したりするのか。

それは、自分の考えを誰かに伝えるためだと思います。レポートならそれは、「授業を担当する教員に自分の理解・調べたこと・考えたことを伝え、それによって評価してもらうため」です。

何が言いたいかという、「レポートは他人が読む」ということです。当たり前といえど当たり前ですが、ちょっと視点を変えてみましょう。まずは例文を見て下さい。

Ex】 カレーは美味しい。

私はカレーが好きなので、この例文は正しいと思います。でも、世の中にはカレーが嫌いな人もいます。カレーが嫌いな人にこの例文を読んでもらいましょう。きっと、「そんなことはない。カレーは美味しくない！」と言うと思います。このように反対意見を言われたら、どうしたらいいのでしょうか？

3. 論拠（根拠）の考え方

普段の会話であれば、「え、でも、カレーって食堂でも人気メニューじゃん」などと反論していくでしょう。文章ではそれを順序立てて説明する必要があります。上の例文に書き足してみましょう。

Ex】 カレーは美味しいのだろうか。（仮説）
カレーは食堂の人気メニューである。（論拠）
よって、カレーは美味しい。（結論）

ちょっと文が増えました。普段の会話なら、あとから付け足す「私がカレーを美味しいと思う理由」を一緒に書いてみました。

でも、ちょっとおかしい事に気がつきませんか？ 「カレーは食堂の人気メニューである」ということ

が真実だったとしても、「カレーが美味しいこと」にはなりません。「美味しいこと」と「人気があること」は違います。もしかしたら、カレーは安いから人気があるだけなのかもしれません。

普段の会話とは違って、レポートではこんなことも考えなくてははいけません。自分の考えを他人（しかも、自分の意見に同意してくれないかもしれない人）に伝えるというのは、かなり面倒なことです。

実際のレポートでは、統計データや文献資料等から分析、考察していくことになります。この方法はそれぞれの学問分野によって千差万別。まずは授業をよく聞いて、わからないところは教員に質問するようにしましょう。今後、本通信でもいくつかの方法をピックアップして紹介していきたいと思います。

4. 文学的な文章（小説・エッセイ）はダメなの？

Ex】 カレー。その言葉を聞くだけで香ばしい香りが立ち込めてくるようである。

お洒落な文章のようですが、レポートにふさわしい文章ではありません。レポートは、ただ他人に伝えるものではなく、分かりやすく論理的に伝えるものです。文章力に自信がある人が陥りやすい落とし穴なのですが、このような文学的表現は、原則的にダメなのです。

ただ、偉大な学者の書いた文章は、説得力を持つものでありながら、時に人を感動させるものでもあります。なかなかそこまではいけなくても、序論（問題提起）→本論（論拠）→結論というレポートの構造や、データの提示法、論証の方法などのルールに慣れてくれば、だんだん自分の個性を出していくことが可能になります。

例えば、バスケットボールについて考えてみましょう。試合でのファインプレイは、多くの人を感動させてくれます。でも、そのプレイは細かなたくさんのルールに基づいたものであり、かつ基礎練習を積み重ねてようやく得られるものですね。レポート・文章についても同じことだと言えるでしょう。

5. いざ、レポートへ！

レポートを書くことで、「形式に従い、文章によって、相手に自分の主張をわかりやすく伝える能力」が培われます。そしてその能力は、社会に出てからも、学問や文学の世界に羽ばたいていくとしても、必ず役に立ちます。

今後も本通信では、みなさんのレポート・文章制作に役立つ情報を発信していきたいと思います！

◎学習支援センター（SLAサポート）では……

SLAによるライティングサポートは、ただ単に「添削」をするのではなく、後輩学生の皆さんのそれぞれの状況に合わせた対応をしています。

○自分の書いたレポートを持ってきてもらえれば、ただ「単に体裁が整っているか」だけでなく、**「他人が読んでどう思うか」「説得力があるか」**についても一緒に考えていきます。

○また、様々な研究科の学生が揃っているので、大学院に興味がある方も気軽に大学院生の話を聞くことができますよ！



☆今日のこぼれ話☆ 本通信は、昨年卒業した先輩 SLA が企画・進行していたもので、SLA メンバーの皆さんの協力により実現することができました。筆者は最終段階で関わらせていただきました。筆者も大学に入学したばかりの頃、レポートの書き方がわからず悩んだことがあったので、同じような悩みを持っている後輩学生の皆さんの手助けができれば幸いです。